



ラッパ吹き

捕虜の中で、捕虜たちの統制をとらせるために、管理役というものを置くようになった。

役員としては收容所側と折衝する涉外役でキャンプの代表ナンバーワンが一人、捕虜全体をまとめるナンバーツウが一人、その下で診療室二人、賄

い六人、売店一人、作業賃金を計算、貯金と支払いをする労務兼会計係一人、時間を知らせるラッパ吹きが二人、そのほか炊事をする烹炊員、看護兵などが選ばれた。

私は巡洋艦、古鷹の信号兵であった、三輪弥平兵曹に可愛がられていた。この人はラッパ吹きの名手でもあった。わたしにラッパを唇だけでくわえてみるといつた、くわえていられると、唇にそれだけ力が入ってラッパは自然に吹けるようになるというのだ。おまえ俺と一緒にラッパ吹きになれといわれ、三輪兵曹の助手になり、班も同じになつた。

他の班員には、收容所側からいわれる作業者人数を公平に各班へ割り当てる係りがあり、われわれのキャンプではナンバーワンの先任下士官、駆逐艦、暁の信号長の宮崎、内地へ帰還後、本名岩崎由雄とわかる（と、班員から買いたいもの例えば歯磨、石鹸など頭の髪をのびはじめた者のポマードなどの注文をとり、支払いをまとめる売店係りの原兵曹（帰還後、本名藤江浅一）がいた。

ラッパ吹きをはじめこれら役員には、金額は忘れたが收容所側から月々わずかとはいえ給料が支払われた。

以後、私はラッパの練習に一人励んだ。夜、誰もいなくなつた真つ暗な食堂で、ラッパの口管だけを口にあてブブブと吹いた。一人で練習のときにつまきつても、いざ人前に出るとブブと鳴るだけで皆に笑われた。うまく吹けるまでには大分時間がかつた。

整列のラッパは海軍式に、十五分前、五分前を知らせて歩いて後、その時間にラッパを吹いた。誰からも笑われなくなると三輪兵曹の代役も務めた。総員起しの朝六時の起床ラッパ、時間が正確なのでコーシーランド兵までこの起床ラッパを聞いて起きてくるように

なつた。人員点呼、朝食、八時五分前に作業整列、昼食、夕食、消灯の合図、間に集合の合図、吹かないときは全く自由で、慣れればこんなに乗を歩いていいのかと思つぐらいの仕事であつた。

こうして私はラッパ吹きの大役があるため、ほかの三人と同じように作業へ出ないでもよくなつた。

三輪兵曹には役目を忘れることがあつてはならないと、暮、麻雀、将棋、花札、トランプの遊びは一切厳禁ときびしく言い渡された。しかし、こつそり麻雀はしたが、遊んでいても時間ばかり気になつて勝負は上の空だつた。十一時三十分になると、昼食の用意ができていくか見に行つたり、十二時五十分には一時の作業整列、ラッパの準備に外へ飛び出し、腕時計を睨みながらラッパを吹いた。

作業労働には、作業員十五人から二十人が集まり、人数の確認をして作業確認をする。二コージョーランド兵の伍長へ割当ての人員を渡した。この作業員集合合図はラッパ吹きの重要な役割であつた。

われわれは昼間、門の入口にある診療所にたむろしていた。

抜打ちに検査があると、ラッパの練習のふりをして合図のラッパを吹き所内に知らせてやつた。刃物づくりをしているものは、慌てて隠したはずだ。

このように、ラッパは本来とは別の効用もあつた。

つづく

次回第三十一回は七月六日(火)の予定